

伝えよう!! ふるさとの魅力

地域の人たちが
大切なことを教えてくれた—

豊かな自然を
大切にしていきたい—

ふるさと交流会



伝統的なお祭りや
絶滅危惧種の保全活動—
一緒に参加しませんか？

ふるさとのこと、
後輩や家族にも伝えたい—



統合小学校に向けて

1 2015
No. 113



INDEX

伝えよう!!ふるさとの魅力	2-3
年頭あいさつ	4-5
確定申告・町県民税申告	6-7
志賀町臨時職員募集	13
虫歯のない子集まれ~♪	24

伝えよう!! ふるさとの魅力



町内8小学校が2校ごとに集まり、互いの地域の魅力を紹介する「ふるさと交流」が行われました。平成28年4月の志賀地域7小学校統合に向け、町教育研究会が、今年度初めて企画。児童らは、地域の人から話しを聞き、現地調査して発表に臨み、各学校が親睦を深めました。

この美しい自然に囲まれながら地域の人から大切にされてきた思いを忘れずここで育つ自分たちに誇りを持って生きていきます

上熊野小6年生の発表より

▲平成25年度NHK全国学校音楽コンクール課題曲「ふるさと」を歌う上熊野小



▲加茂小は、古い歴史を詳しく調査

加茂小の6年生4人は、地区名「安津見・倉垣・矢駄」の名前の由来を発表。加茂神社や丸山古墳など、古い歴史も詳しく調べ、加茂小の下からも遺跡がたくさん発掘されたことを話しました。「全国でも有名な矢駄の獅子舞。とても激しく長いので、子どもの体力では踊れないから大人が踊ります」との説明に、下甘田小学校児童は、「下甘田では、子どもが獅子舞を踊るので、びっくりした。矢駄の獅子舞を見たい」との感想が出ました。



▲校歌を披露する下甘田小

下甘田小の6年生7人は、学校の名前の移り変わりや、今と昔の児童人数・学校行事・校舎などを比較調査し、発表しました。明治初期には2つあった小学校が合併し、場所も変更。11回も学校名が変更していた事実には驚いたと話しました。また、児童数調査では、人口減少の事実を知り、住みよい環境づくりをして、地元がなくならないようにしたいと感想を述べました。また、校歌の歌詞の意味を調べ、校歌を歌い披露しました。来年廃校になる小学校。校舎だけでも残ってほしいと児童全員話していました。

今回は、12月に行われた6校の交流活動を紹介します。

加茂小学校
×
下甘田小学校

12/4

堀松小学校
×
志加浦小学校

12/4



▲堀松綱引祭りを紹介する堀松小

堀松小の5年生12人と6年生8人は、ノシ口タ遺跡や堀松に伝わるカッパ伝説やねり薬、絶滅危惧種の魚・トミヨや、その生息地であるサギ池を調査。地域で盛んな保全活動を紹介し、児童らに参加を呼び掛けました。また、町特産のころ柿作りの大変さや、堀松綱引祭りを紹介。毎年青年団が作成する縄の一部を見せ、祭りの動画も紹介して、「皆さんも祭りに参加しませんか」と呼び掛けました。

志加浦小の5年生12人と6年生11人は、地域の民話「弘法水」を劇で紹介。地名「志加浦」の由来にも触れました。また、志賀晒や漁港の水揚げ、生き物調査や絶滅危惧種の多年草・ウミミドリが生育することも紹介し、きれいな環境・伝統を守り続けたいと話しました。フーロイ、いこいの村、アリス館などの魅力ある施設も紹介し、町指定文化財の平家も説明しました。発表を聞き終わり、お互いの地域に絶滅危惧種が生息していること、その保全に取り組む地域の活動を知り、共に守り続けていきたいと話しました。

▲各地区の民話を紹介する志加浦小



土田小の5年生15人と上熊野小学校の5年生9人は、お互いに「米」を調査。同じテーマでも、発表内容は異なり、バケツ稲の生長から収穫体験、アイガモ農法、米の栄養、外国の米農法、水をくみ上げるパーチカルポンプの話など、お互いに幅広く発表しました。



▲クイズを出題する上熊野小



▲稲の収穫体験を紹介する土田小

▼地域発展に尽力した先人を紹介



自分たちもふるさとを大切にしたいという思いを歌に込め、楽曲「ふるさと」を歌いました。

土田小の6年生8人は、県指定文化財のヒウチダニキクザクラ、町指定文化財の嫁ほめうた、長龍寺庭園などについて発表しました。
上熊野小の6年生12人は、通学路としても馴染み深い自転車道路に、かつて鉄道が走っていたことを調査。羽咋から三明までの鉄道を開通させるため尽力した米町出身の中谷秀一さんを紹介しました。地域の発展に尽くした先人の思いに共感し、



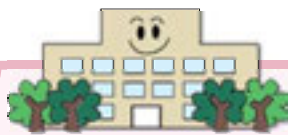
▲嫁ほめうたについて発表する土田小



地元を知ることには地元を愛することにつながります。児童は、ふるさとの素晴らしさを再発見し、地元を誇りに思う心を育てています。交流活動を通して、理解がより深まり、情報を交換し共有することで、絆が生まれました。今回交流した5・6年生は、中学校で一緒になります。この活動は、後輩にも引き継ぎ、統合小学校で共に勉学に励むこととなる児童が、志賀町に誇りを持って成長していけるよう、今後とも取り組んでいきます。

ふるさとの
素晴らしさを
再発見し、
地元を誇りに思う
心を育てています

町教育研究会 山本 正美 会長（堀松小学校長）



志賀町統合小学校建設検討委員会
事務局 ☎ 32-9360

統合小学校建設検討委員会だより

No. 14

校名・校歌・校章・校訓部会

校名が決定しました！ 校名：「志賀町立 志賀小学校」



校名が決定した、主な選定理由は次のとおりです。

1 アンケート

保護者アンケートの結果、「志賀小学校」が全体の57.6%を占め、二番目に多い「高浜小学校」の8.7%を大きく上回っている。(図1参照)

2 新しい校名

新設校には、既存校にない新しい校名がふさわしい。

3 地域を象徴

地域を象徴する校名として、富来地域には「富来小学校・富来中学校」があり、志賀地域には「志賀小学校・志賀中学校」が望ましい。

校名については、慎重に協議を進めてきました。様々な意見を集約し、新校名での設置条例が町議会で承認されました。現在は、校歌や校章などの制作に向けての準備も進めています。

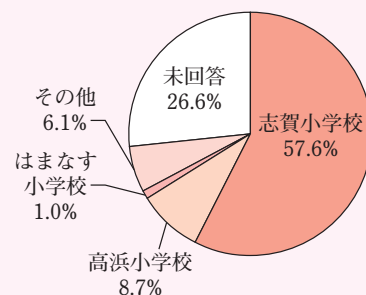


図1 校名に関する保護者アンケート結果



志賀町長

小泉 勝

Masaru Koizumi

年頭あいさつ

2015

謹んで新年のご祝詞を申し上げます。
町民の皆さまには、希望に満ちた新春をお迎えのことと
心からお慶び申し上げます。

将来に向けた 発展の年に

平成17年9月1日に旧志賀町と旧富来町が合併し、今年
は、10年という節目の年に当
たります。

この記念すべき年を町民の
皆さまと共に祝い、将来に向
けて、さらなる飛躍と発展に
つなげていきたいと考えてい
ます。

今年、平成29年度を初年
度とする、「第2次志賀町総
合計画」の策定に取り掛かり
ます。本計画は、町の特性を
活かしつつ、住民と企業、行
政の協働により町の課題を解
決し、すべての住民が豊かに
暮らし続けられるよう、夢と
希望を具体化するものとし
て、今後10年の総合的な町の
将来ビジョンと町政のあり方
を示すものです。

町民をはじめ、関係の皆さま
のご意見をお聴きしなが

ら、未来に向けて飛躍する町
の創造を目指して、計画の策
定を進めていきます。

町の魅力発信で 交流人口の拡大を

町の活性化を図るうえで、
地域資源の魅力を発信し、交
流人口の拡大を図ることが重
要です。

3月14日の北陸新幹線金沢
開業が、いよいよ間近となり
ました。首都圏との時間的な
距離が縮まることで、観光や
ビジネスで石川県を訪れる人
が増加することは確実であ
り、この大きなチャンスを活
かすため、諸施策を効果的に
実施し、交流人口の拡大につ
なげていきます。

本町には、能登の里山里
海に指定された素晴らしい
景観や文化、伝統芸能のほ
か、新鮮な海の幸、農産物

等の豊富な食材などの地域
資源が多くあり、これらを
町の魅力として、積極的に
PRしていきます。

また、旅行会社の調査によ
ると、近年、旅行情報の入手
ツールは、インターネットが
約7割に達するとの結果が出
ていることから、旅行会社の
運営サイトに、町の特集ペー
ジや観光協会ホームページの
バナー広告を掲載するなど
し、町を印象づけ、旅行先に
本町を選んでいただけるよ
う、情報発信を充実させてい
きます。

本町の食の魅力を発信する
ため、観光協会と連携して進
めてきた「西能登おもてなし
丼」のPRについては、パン
フレットやチラシの作成に加
え、コマーションを制作し、
北陸新幹線金沢開業に合わ
せ、テレビやラジオで幅広く
紹介していきます。

地域の活力向上を 目指して

町の活力は、多くの若者の定住を促進することで、より高まってくるものではないかと思えます。町では、今年から、高浜市内の住宅地造成工事に着手し、若者の定住を促し、市街地の活性化を図ります。快適な住環境を提供するとともに、安心して子どもを産み、育てられる環境を創出し、若い世代のライフスタイルに対応した生活環境の充実を図っていきます。

また、若者の定住を図るためには、魅力的な雇用の場が必要で

す。昨今の円安の流れに加え、海外での人件費の上昇もあり、製造業など一部の業種では、国内での生産・調達に切り替える動きが出てきています。

こうした企業誘致に有利な環境となってきたことを追い風に、これまで以上に、私自身らが、熱意を持ってトップセールスを行い、積極的な誘致活動に努めるとともに、立地企業の事業拡大に対する支援を積極的に推進し、雇用の創出につなげていきます。

災害に強い まちづくりを推進

近年、台風や異常気象による記録的なゲリラ豪雨が頻発し、全国各地で甚大な被害が発生しています。本町でも、昨年8月の豪雨の際には、幸いにも人命に関わる災害はありませんでしたが、土砂災害による住宅の被害が6件あり、現在、被害箇所の復旧と地すべり防止対策を講じています。

町では、土砂災害ハザードマップの作成にも取り組んでおり、今年4月には、全戸配付の予定です。町民の皆様には、自分の住む地域の土砂災害に対する危険度を知っていただき、土砂災害時の円滑な避難行動につなげていただきたいと思います。

今後も、町民の安全・安心を最優先に、防災・減災対策をしっかりと行い、災害に強いまちづくりを進めていきます。

発電所の安全性、 信頼性の向上を

北陸電力は、昨年8月、原

子力規制委員会に2号機における新規基準への適合性を確認する審査申請書を提出しました。

規制委員会では、敷地内破砕帯について、有識者会合で一定の方向性が出た段階で安全審査を開始する方針であり、町としては、北陸電力には、まずは破砕帯問題に適切に対応し、今後とも、より一層の安全対策に取り組んでもらいたいと考えています。

また、国には、発電所の安全性を確認するとともに、その結果を町民の皆さまに分かりやすく説明することを求めています。

子供たちの未来の ために

平成28年4月の開校に向けて準備を進めている、志賀地域の統合小学校の校名は、「志賀小学校」に決定しました。

現在、校舎棟の建設工事を、児童の教育環境の保全に努めながら進めており、学校運営に関するソフト面でも、校歌・校章の検討やスクールバスの運行計画の作成などの作業を進めています。

また、今年、志賀小学校

の建設と併行して、同敷地において、放課後児童クラブの建設にも着手します。現在の放課後児童クラブは、小学1年生から3年生の児童を対象に受け入れていますが、児童福祉法の改正に伴い、保護者の多様なニーズに対応するため、新しい施設は、受入対象を6年生まで拡大することとし、定員200人の施設を整備します。

今後も、町の未来を担う子ども達が安心して勉強やスポーツに励み、心身ともに健全に成長することができる環境の整備を目指し、着実に準備を進めていきます。

協働のまちづくりの 推進を

町長に就任してから、5年が経過しました。

私は、これまで対話の町政を基本姿勢として、町民一人一人の声を町政に反映させたいという思いから、

タウンミーティングや町長談話室などを開催し、開かれた行政運営に努めてきました。今後も、これらを継続し、町民の皆さまと連携を図りながら、協働のまち

づくりを進めていきます。

また、健全財政の確立を目指し、基金の積み増しや町債の繰上償還、定員適正化による職員数・職員給与費の削減、補助金や公の施設の見直しなどの行政改革を推進してきました。その成果として、5年間の総額で、約27億円の行政コストが削減される見込みです。

今後も行政改革を不断に実行しながら、財政の健全化を図ることを基本に置き、さらなる企業誘致の推進、人口減少対策、若者定住の促進、子育て支援の拡充、観光振興や第1次産業への支援などに力を注ぎ、町民の皆さまが、「住んで良かった」と実感できる町づくりを目指していきます。

多くの課題が山積する中でありますが、今後も全身全霊を傾け、町の発展に取り組みんでいきますので、皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

結びにあたり、今年一年が皆さまにとっても、志賀町にとっても良い年でありませう、心からご祈念申し上げます。新年のごあいさつとします。

平成27年 元旦